

小 学 校

平 成 5 年 度

教育研究員研究報告書

音 楽

東京都教育委員会

平成5年度

教 育 研 究 員

地 区	学 校 名	氏 名
文 京	駕 籠 町 小 学 校	小 塩 美 智
台 東	小 島 小 学 校	☐ 田 中 恭 子
江 東	第 二 辰 巳 小 学 校	小 川 修
目 黒	向 原 小 学 校	平 山 百 合 子
世 田 谷	東 玉 川 小 学 校	◎ 岡 野 さ ゆ る
豊 島	日 出 小 学 校	☐ 鈴 木 ち づ 子
練 馬	大 泉 小 学 校	高 山 光 市
足 立	青 井 小 学 校	小 嶋 幸 三
葛 飾	柴 原 小 学 校	日 比 谷 弘 子
江 戸 川	下 鎌 田 西 小 学 校	福 田 美 佳
狛 江	狛 江 第 六 小 学 校	真 鍋 な な 子
清 瀬	清 瀬 小 学 校	△ 神 山 陽 子
立 川	第 九 小 学 校	石 倉 松 枝
日 野	日 野 第 一 小 学 校	徳 田 崇

◎世話人 ☐副世話人 △記録

担 当 課 長 小 島 宏 教育庁指導部初等教育指導課
担当指導主事 小 川 勝 教育庁指導部初等教育指導課

目 次

I 研究主題	2
1 研究主題設定の理由	2
2 研究仮設	2
3 研究の構想	3
II 研究の内容	4
1 研究を進めるにあたって	4
(1) 児童の実態	4
(2) 目指す児童像	4
(3) 音楽経験を生かす	5
(4) 主体的に音楽活動に取り組む児童	5
(5) 学び方を身に付ける	6
2 指導の改善と指導事例	7
(1) 興味・関心・意欲をもって取り組めるようにする	7
(2) 見通しをもって学習できるようにする	10
(3) いろいろな工夫をすることができるようにする	13
(4) 互いに発表し合い、よさを認め合うことができるようにする	17
(5) 学習を振り返り、自己評価することができるようにする	20
(6) 新たなめあてをもって取り組めるようにする	23
III 研究のまとめと今後の課題	24

I 研究主題

音楽経験を生かし、主体的に音楽活動に取り組む児童を育てる指導の工夫
——学び方を身に付ける活動を通して——

1 研究主題設定の理由

今日の社会は、「情報化社会」だといわれている。町には、情報があふれ、様々な音や音楽が流れている。このような中に生活する子供たちは、音や音楽に耳を傾けて聴くというより、聞き流したり、一方的に聴かされてしまっているという状況にある。

私たち教師は、児童の好奇心に満ちた瞳、生き生きと活動する姿を求めて、日々、音楽科教育に取り組んでいる。しかし、学習への意欲はあるが、音楽に主体的にかかわり、友達と一緒に音楽をつくりあげることのできない子供が少なくないことも事実である。本来、子供は主体的な資質を有し、どの子も「よりよく生きたい」と願っている。子供たちが主体的に音楽学習に取り組むことのできない背景には、前述の社会の状況、物事に無関心・無感動になりがちな子供の生活、音楽を自分のものとしてとらえ、自分なりの感じ方・表わし方で表現する音楽経験の不足などが考えられる。子供たちの感性の柔らかい児童期に、音楽に対する価値観を広げ、自分の力でより良い音楽を選択し、これを生活の中に生かしていくことのできる資質や能力を育てることは、豊かな人間の育成につながり非常に大切である。

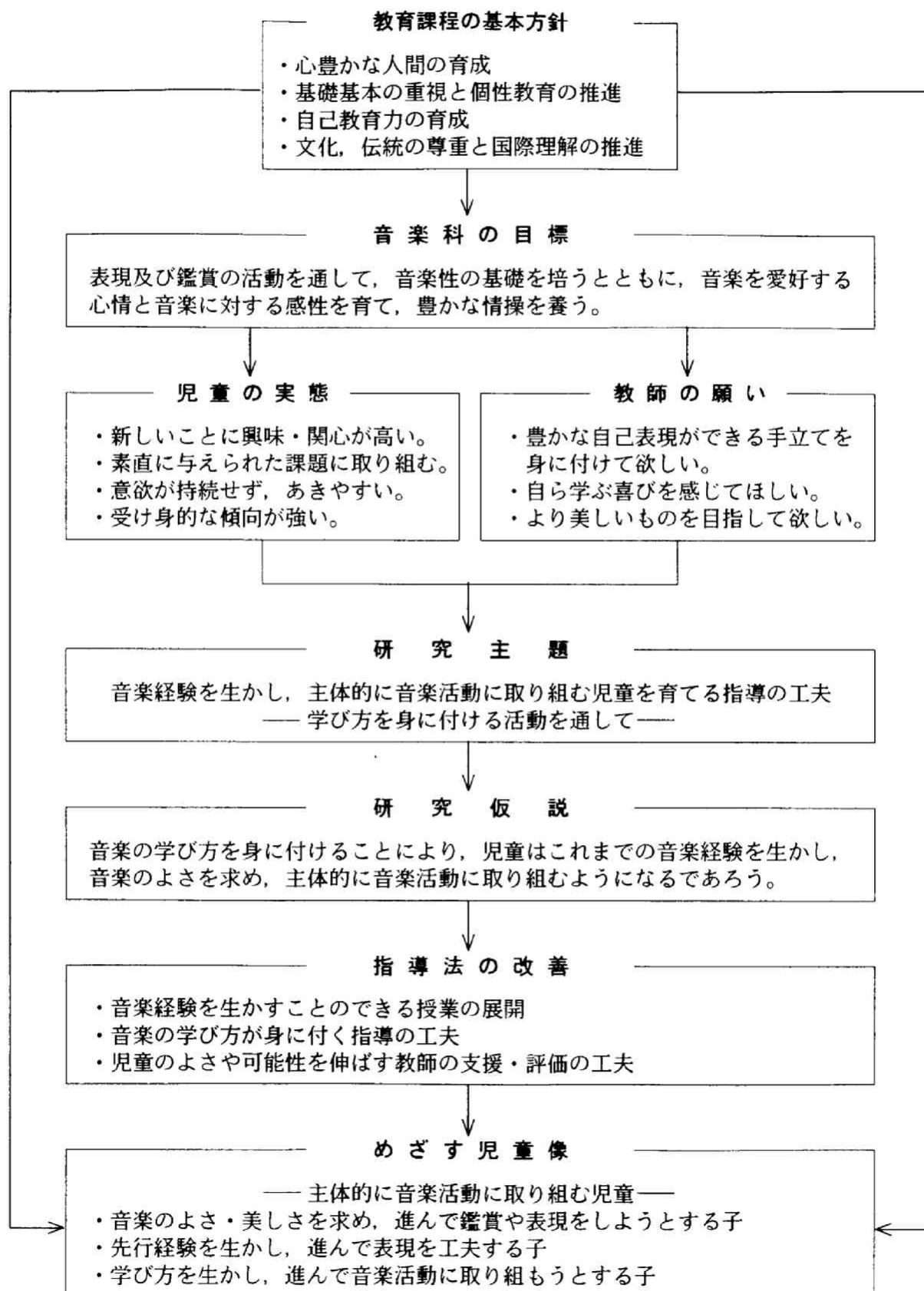
そこで、私たちは、これまでの指導を振り返るとともに、音楽のよさを求めて主体的に活動する児童を育てる指導の在り方を究明するため、本主題を設定した。

2 研究仮説

音楽のよさ・美しさを求めて活動する音楽経験の蓄積の大切さ、これまでの音楽経験で培ってきた基礎的・基本的な力を次の活動に生かし主体的に学ぶことのできる学び方の習得の重要性に着目し、次のような研究仮説を設定し、研究を進めていくことにした。

音楽の学び方を身に付けることにより、児童は、これまでの音楽経験を生かし、音楽のよさを求め、主体的に音楽活動に取り組むようになるであろう。

3 研究の全体の構想



Ⅱ 研究の内容

1 研究を進めるに当たって

(1) 児童の実態

研究を進めるに当たって、それぞれの所属校の児童の実態について話し合った。その内容をまとめると次のようになる。

- ・新しいことに興味・関心が高いが意欲が持続しない。
- ・与えられた課題には素直に取り組むが受け身的である。

現代社会の物質的に豊かな生活や、知識・技能の習得を重視し、一人一人の感じ方・表現の仕方を軽視してきたこれまでの教育の在り方が子供たちの生き方・行動に大きく影響を与えている。

欲しい物を何でもいつでも自由に手に入れることができる物質的に恵まれた生活、「児童が自ら考える」よりも「教師が教える」ことが多くなりがちな学校の授業など、自ら考え、判断したり、工夫や努力をしたりして表現することが少なくなった生活が、意欲が持続しない受け身的な児童に育ててしまっているものと考えられる。

(2) 目指す児童像

主体的に音楽活動に取り組む児童

- ・音楽のよさ・美しさを求め、進んで鑑賞や表現をしようとする児童
- ・先行経験を生かし、進んで表現を工夫しようとする児童
- ・学び方を生かし、進んで音楽活動に取り組もうとする児童

私たちが目指す児童像は、主体的に音楽活動に取り組む児童である。この児童像を具体化するには、一人一人の児童がよりよい表現やより深い鑑賞を進んで行うことができるようにすることが重要である。そのためには、音楽の学び方を身に付け、これまでの音楽経験を生かし、自ら音楽とかかわっていくことができるよう授業の中で教師が意図的・計画的に働きかけていくことが必要である。それにより、「音楽性の基礎」「音楽愛好の心情」「音楽に対する感性」が高められ、主体的で心豊かな児童の育成が達成されるのである。

(3) 音楽経験を生かす

児童は、生まれてから現在に至るまで、様々な音楽経験をしている。それらを経験の場という視点から分けると次の四つになる。

- ア 音楽の授業を通して得た経験
- イ 授業以外の学校生活を通して得た経験
- ウ 習い事などを通して得た経験
- エ 日常生活を通して得た経験

また、経験の内容から分類すると、

- ア 歌ったことがある、演奏したことがある、聴いたことがある、つくったことがあるなどの楽曲に触れた経験
- イ どのように、楽曲を自分のものにしたのか、課題解決の経験

私たちは、これらすべての経験を「音楽経験」ととらえ、特に、音楽の授業を中心に、課題解決の経験を重視した音楽経験を生かす指導の在り方を考えることにした。

また、「音楽経験を生かす」ことを次のように考えた。

今までの音楽経験から得た技能や課題解決の経験を生かし、児童自らめあてをもって音楽を聴いたり、表現を工夫し曲を仕上げたり、つくったりすること

(4) 主体的に音楽活動に取り組む児童

児童が自ら学ぼうとする意欲をもって主体的に音楽活動にかかわり、そこでの経験を発展的に生かすことのできる資質を養うことは、あらゆる音楽活動の原点である。

〈主体的に活動する児童の姿〉

- ・児童一人一人が自分の思いやイメージ、感じ方や考え方を自ら発揮して、表現や鑑賞活動に取り組もうとする。
- ・児童が、興味・関心を深めながら学習意欲を高め、自ら積極的に学習活動を行い、自己実現を図ろうとする。
- ・これまで経験してきたことを生かしながら、自分の思いを表現しようと工夫する。
- ・友だちと協力し合って音楽活動をするを楽しもうとする。
- ・自分自身で課題を見つけて、自分自身の力で根気強く学習を進めようとする。

(5) 学び方を身に付ける

これからの変化の激しい社会を生き抜いていくためには、変化に主体的に対応できる資質や能力の育成を図ることが大切である。音楽の学習の中では、児童自らが進んで音楽に取り組む意欲を培い、主体的で創造的な学習を進めていく方法を学ぶことができるようにする必要がある。それにより、児童は生涯にわたって音楽とかわり、これを楽しむことができる資質・能力を身に付けるのである。

〈学び方を身に付ける学習の過程〉

① 興味・関心・意欲をもつ（前にもやったことがある、やってみたい）

一般に「意欲」は、解決したい欲求とやり遂げたいという意志が一緒になった、心の働きである。音楽との新鮮で感動的な出会いを工夫する。

② 見通しを立てる（こうじゃないかな、こうかもしれない）

課題解決の目的や意図を明確にもち、達成、解決のために強く意志を働かせることは、学び方の基本となるものである。学習の計画を立て取り組むことができるようにする。

③ いろいろな方法でやってみる（これでいいのかな、やり方がわかった）

自ら学ぼうとする意志は、いろいろな方法で試したり、友達に聞いたりして納得できるまで取り組もうとする力を生む。これまでの経験を生かして学習できるようにする。

④ 発表し合い意見を出し合う（友達の演奏はどうかな、もっといい方法はないかな）

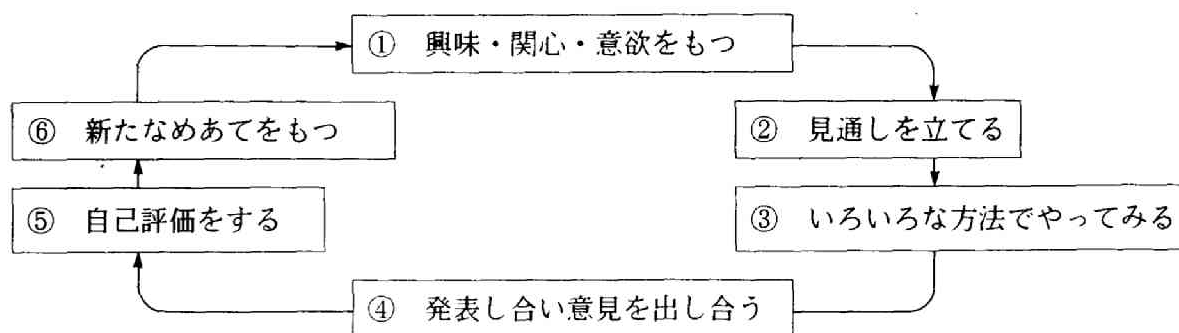
発表し合い意見を交わすことは、児童の音楽観を広げ、学ぶことへの新たな意欲を喚起することにつながる。演奏発表の機会を設け、よさを認め合うことができるようにする。

⑤ 自己評価をする（よくできた・うまくなった、失敗した・どうしたらいいかな）

学習の成果を自分で正しく評価する力を育てることによって、児童は、より豊かな表現や自分の成長の喜びを得ることができる。自己評価を積極的に取り入れる。

⑥ 新たなめあてをもつ（もっとやってみたい、こんどはこうしたい）

やり遂げた喜びや美しいものを自らの手で得た感動は、新たな取り組みへの意欲を生み出す。互いに喜び合ったり、認め合ったりして満足感や成就感を味わえるようにする。



2 指導の改善と指導事例

(1) 興味・関心・意欲をもって取り組めるようにする

音楽への興味・関心・意欲は、音楽学習の原動力となるものである。一時間の導入の指導の在り方、楽曲の提示の仕方など工夫し、児童が音楽を楽しみながら学習に取り組むことができるようにする必要がある。

① 楽しく学習できる雰囲気をつくる。

- ・ 今月の歌、愛唱歌、既習曲などを楽しく歌い、学級の雰囲気や学習への意欲を高める。
- ・ できるだけ進行係や指揮者などを決め、児童の主体的な活動として実施する。
- ・ リコーダーの重奏や歌の重唱など、練習してきた成果を皆の前で発表する。

② 楽しく音楽の基礎・基本を身に付ける。

【発音や発声】

○表情豊かな表現を生み出すための楽しい準備体操

- ・ ヒップアップ…臀筋を引き締める。背筋を伸ばした姿勢や腹筋の活用が可能になる。
- ・ 顔の表情……眉毛、鼻、頭皮等を動かし、明るい顔・声づくりをする。
- ・ 腹筋の運動……「シュッシュッ」と息をはき腹筋運動。二人組で交代で練習する。



—機関車になってシュッ—

○正しい発声を、歌いながら楽しく身に付けることができる歌唱曲

〔楽曲例〕・「楽しい発声のドリル」 岩河三郎 作詞・作曲

複式呼吸の練習、腹筋の活用、のどを開ける練習

・「夢からさめて」 加賀清考 作詞・作曲

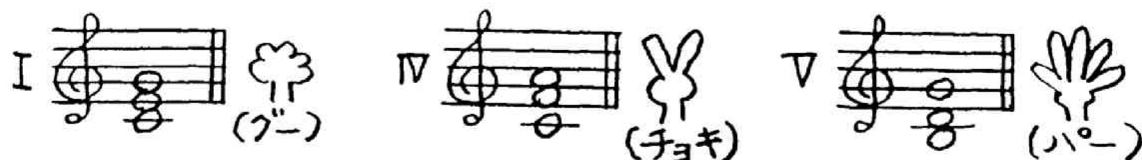
のどを開ける練習

【リズム・拍子】

- ・ ことば遊び……拍の流れにのって、教師対児童でことばによる問答をする。
- ・ リズムリレー……前の人の模倣や前の人と違うリズムでリレーをする。
高学年では、リズムのしりとりなども工夫するようにする。
- ・ リズムの Rond…テーマをはさんで、一人一人がリズムの即興演奏をする。
- ・ バッテリー奏……大太鼓・小太鼓やラテンリズム楽器等でバッテリー奏をする。

【和 音】

グー、チョキ、パーのハンドサインを使って、ピアノで弾く和音を楽しく聴き分ける。



【長調・短調】

- ・授業開始のあいさつを、その日の天候に結び付け、晴れの時は長調、雨や曇りの時は短調の和音に合わせて、「こんにちは」のカデンツ唱をする。

【音】

- ・いろんな音を見つけよう

音楽室にある様々な楽器の音色を楽しみながら、いろいろな種類の音を探させる。

児童は、音楽室や準備室の隅々まで楽器を探して歩き回り、新しい楽器を発見し、合奏で活用することや、音楽をつくること演奏することへの期待や願いをもつようになる。

- ・どんな音が出せるかな

楽器の正しい奏法を身に付けたり、自由な発想で音を作りだしたりする。

〔例〕木琴……ばちの工夫・奏法の工夫・叩く場所の工夫

【旋 律】

旋律を聴き取り階名で歌う学習を楽しく行える教材を活用する。

「すてきなドレ

ミ」では、児童は、思い思いの身体表現をしながら歌い、音を聴くところにくると、動きを止めて耳をすま

す。そして、正解のファンファーレが鳴ると、飛び上がって喜びの表現をした。

作詞・作曲 黒田 都

③ 感動のある教材の提示の工夫

【鑑賞教材の提示】

鑑賞の学習では、教材の美しさやよさを感じ取るために、回数多く聴くことが必要になる。めあてを明確にすることによって、聴くたびに新鮮な感動を得ることができ、音楽が身近で親しいものになり、「もっと聴きたい」「同じ作曲家の他の曲を聴きたい」など、児童の学習への興味・関心・意欲が高まる。

- ・「曲を聴いて題名をつけよう」と課題を与え、曲の全体の感じをとらえることができるようにする。
- ・自由に情景を想像したり、お話をつくったりしながら聴いて、音楽のイメージを広げる。
- ・視聴覚教材や機器を活用し、演奏の様子や曲の構成を目で確かめながら聴く。
- ・クイズ形式で、主旋律の繰り返しや変化のおもしろさ等、音楽の諸要素を聴き取る。
- ・同一曲を他の演奏者や異なる楽器の演奏で聴き比べ、表現や音色の違いを発見する。

【表現教材の提示】

表現の学習は、声や楽器など音の出る物を使い、自分たちのイメージを音や音楽にして具体的に表すことにある。児童の興味・関心は、歌詞内容や楽器、音を探すこと・組み合わせること、表現を工夫すること、友達と一緒に協力し合うことなどにある。これらが学習への意欲に結びついていくのである。教材の提示は、これらに留意し、児童が新鮮な感動をもって、音楽にふれ合うことができるよう工夫することが必要である。

ア 歌唱教材

- ・「去年の○年生の演奏だよ。皆もこんなふうに歌えるようになるといいね。」と、昨年度の子供たちの演奏を聴き、「私たちも……」という、意欲を喚起するようにする。
- ・写真や絵、視聴覚教材等を活用したり、歌詞の表す情景を自由に想像したりしながら範唱を聴き、表現へのイメージを広げ深め、豊かな表現を追究できるようにする。
- ・歌詞内容について話し合い、自分なりの表現のイメージをつかむことができるようにする。

イ 器楽教材

- ・合奏で使う楽器や奏法・役割を紹介し、音楽活動への興味・関心を高め、自分の取り組みたい楽器の動きや役割に気を付けて範奏を聴くようにする。
- ・「主なふしがどんなメロディーか、自分の力で勉強してごらん。」と投げかけ、主旋律のパートを、リズム打ち・階名唱や楽器など、これまでの経験を生かして自分の力で演奏できるようにする。

(2) 見通しをもって学習できるようにする

① 学習計画を立てて学習する。

自主的に学習できるようにするには、自分たちで学習計画を立て、見通しをもって学習できるようにすることが必要である。

学習カードは、自分で学習計画を立てたり、皆で話し合いグループとしての計画を立てたりし、それに沿って学習し、評価する学習の習慣化を図るのに大変有効な手段である。

下に示した指導事例では、児童はカードを活用し、自主的に学習を進め、自分たちの課題を解決しながら技能や意欲を高めたり、自分なりの学び方を身に付けていった。

児 童 の 活 動	教 師 の 手 立 て ・ 留 意 点
・ 音楽を聴いたり、歌ったりして、題材の学習内容の概要をつかむ。	・ あらかじめ一斉学習の中で、カードの中の教材のあらましを、CDなどで聴かせたり、歌ったりさせるなどして、児童がつかんでおけるようにする。
・ その日の「学習のめあて」を決め、グループごとに活動する。	・ 児童が活動に生かせそうな「基礎基本」は、音楽経験として積み上げておけるようにする。
・ 自分たちのめあてが達成できたら、先生のところへ聴かせに行く。	・ 評価規準を一人一人に合わせて設定、評価をし、シールや印をカードにつける。 ・ 個々を大切に、一人一人に励ましや次の活動のきっかけになるような助言や声かけができるようにする。
・ カードにシールや印をもらったグループから「発表コーナー」の場でどんどん発表し、互いに聴き合う。	・ 教師から見て特にみんなの表現に役立ちそうな「よい表現」は、すぐにでも聴かせるようにする。 ・ 人前で発表する喜びを多く体験させる。
・ 他の発表から学んだことを、自分たちの表現に生かしていく。	・ 友だちの発表を聴いて、よい所・工夫した所を見つけ出させるようにする。

② めあてカード

【低学年の例】

一人一人の児童が自分の学習進度を明確につかむことは、音楽学習への意欲をもち続け、主体的に学習を進めていくために非常に重要なことである。カードの利用は、学習進度が視覚的にもはっきりとする。特に低学年においては、ステップをこまかくすることによって、友だちと競い合ったり、教え合ったりしながら楽しく学習することができる。また、ステップが細かいだけ進み具合の変化も大きく、楽しみながら学習活動が続けられる。

練習段階でカードを点検しながら、教師が児童一人一人とかわかるとにより、つまづきを知ったり、解決のための方法を考えさせるような支援や助言ができ、学習意欲をさらに高めることができた。

ポンポンピアノはかせカード

2年 組

なまえ _____

めざせ『はかせ』

・できたら色えんぴつで
ぬっていきましょう。



《気を付けること》

- 1 はやくなりすぎないこと。
- 2 ゆびばんごうを正しくひくこと。
- 3 もっきん、てっきんは、りょう手をつかうこと。

—— 2年「ポンポンピアノ」 ——

【中学年の例】

低・中学年時の「めあて」は単純である。

しかし、児童は、めあて達成のために根気よく練習に取り組む。できないと「先生、教えて!」と何度も教師のところへやってくる児童、「できない!」と涙ぐみながらもねばり強く練習を続ける児童、黙々と練習を繰り返す児童など様々である。

また、学習後の自己評価では、自分の練習を反省し、「次は、こんなめあてで、あんなふうをやってみよう」などという意欲を見せている。

このような経験を繰り返すことにより、より高いめあてをもったり、自分にとって何が課題なのかをつかむ力が身に付いていくのである。

(めあて)

たのしく
ゆかいに
うたいたいです。

(3)ねん(1)くみ

わたしは
はさみとき
のうたを。

(うたのたいめい)

よくできた ☒
だいたいできた ☐
まだできていない ☐

(まだできていない)の人は、こんどもがんばってね。→

じぶんでさいてんしてみましよう。(○をつける)

— 3年「はさみとき」 —

【高学年の例】

高学年では、音楽に主体的にかかわれるよう学習カードの工夫、活用の工夫を行った。

自分はどこの部分にポイントをおいて歌を仕上げていきたいかを考え、それぞれの目標をカードに記入してから、学習を始めるようにした。

目標の項目は、A B C Dの4つに分け、それぞれ児童が自分で設定し、◎(よくできた)、○(まあまあできた)、△(もう少し)の3段階で毎日、自己評価するようにした。

ひとつの項目を重点的に評価している児童から、あらゆる項目にわたって評価している児童まで様々であった。また、目標自体もただ「大きい声で歌う」といったものから、「張りのある響きをもった声で歌う」というものまで様々で、児童なりの成長ぶりが見えてくるようであった。

このカードを活用することによって、児童に自分を見つめる目が育ち、得意なところや苦手なところを認識することができ、ただ漠然と歌うのではなく、目標をとらえて自分から主体的に教材に取り組むことができるようになった。

年 組		班 名 前		気をつけて歌いたいところ		評 価	
A	しかり声を出す ひびきのある声	自分の声をしかり出す		9/10 ◎	9/14 ◎		
B	音程、リズム 手拍子	リズムや音程、声の大きさに気をつける		9/14 ◎	9/22 ◎		
C	曲想 強弱	fからPに入るところに気をつける		9/14 ○	9/22 ◎		
D							

— 5年「歌はぼくらの友達」 —

(3) いろいろな工夫をすることができるようにする

児童は、一人一人がそれぞれ異なった個性や特性をもっている。同じ内容を与えても感じ方や表現方法は様々である。教師が一つの方法だけを押しつけ指導することを避け、児童が試行錯誤し、いろいろ工夫する活動を学習の中に取り入れ、一人一人の児童の感じ方・表現の仕方を一層伸長するよう側面から支援していくことが必要である。

① 学習形態の工夫

児童がいろいろ工夫できるようにするためには、活動の機会や場を設定することが必要である。ここで留意しなければならないことは、学習形態を学習内容に応じて適切に選択し、児童が伸び伸びと活動できるように工夫することである。

学習形態は、一般的に「一斉学習」「グループ学習」「個別学習」の3つに大別される。下図に示した基本形態以外にも、各学校の児童の実態、教室環境等に応じて工夫することが必要である。また、グループ活動では、準備室や空き教室等の活用も考え、児童の活動の場が十分に確保できるようにする。

《個別・一斉》

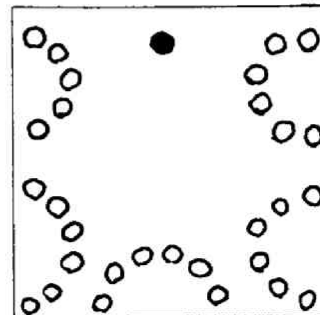
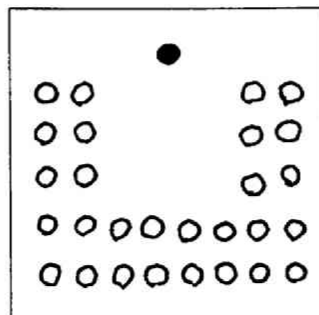
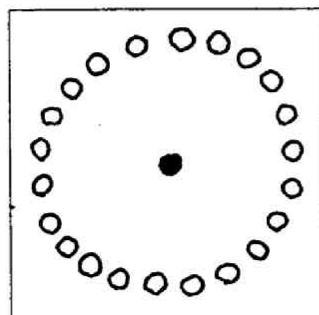
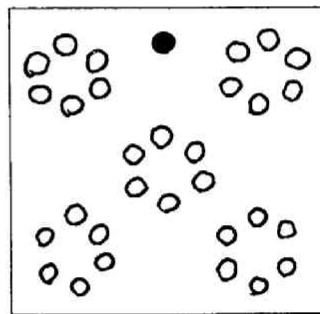
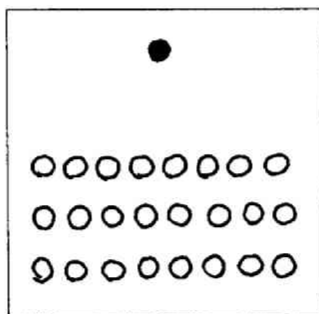
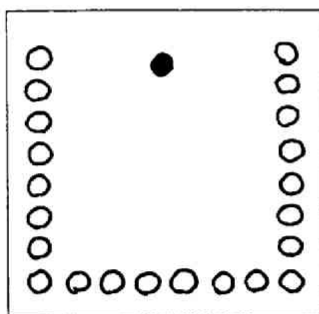
- ・リズムリレー
- ・楽器の練習
- ・身体反応・表現 等

《個別・一斉》

- ・一斉に合わせる
- ・楽器の練習
- ・鑑賞 等

《グループ》

- ・グループアンサンブル
- ・音づくり
- ・話し合い 等



② 指導方法の工夫

【歌唱指導の工夫】

表現を工夫し、表情豊かに歌うことができるようにするには、一人一人の音楽の感じ方や表現の仕方を大切にすることが必要である。

ア 歌い方を工夫できるようにする

- ・ことばや歌詞を十分読んだり朗読したりして、歌詞の表す情景やことばの響きなど味わい歌の気持ちをつかむようにする。
- ・旋律やリズム・和音の動きを範唱などから聴き取り、曲の感じをつかむようにする。
- ・自分たちで表現を工夫し、発表し合う活動を取り入れ、音楽をまとめ上げる喜び、発表する喜びを味わわせる。

イ 発声を明るくする

声や発音を明るくするためには、顔の表情をよくすることが大切である。児童に「笑うとどんな変化が出る？」と鏡で観察させると、「歯が見える！」「頬が上がる！」「目尻が上がる！」などと子供たちは答える。いい表情、明るい気持ちで歌うように心掛けさせる。

ウ 心を合わせる

二人で歌う「ペア歌い」を活用して向かい合って練習する。お互いのよさ（声がきれい、声が大きい等）を認め合い、まねをするようにする。練習する時は、目をそらさずに歌わせる。

エ 歌声や表現を合わせる

発音・発声のきれいな子や歌い方の上手な子にワンフレーズを歌わせ、次々にリレーで歌わせる。3人まで歌ったら全員に戻して歌う。

【器楽指導の工夫】

ア 楽器の選択・奏法の工夫

児童は常にあの楽器でここを弾きたい。こんな音で弾きたいなどの願いを持っている。

同じ楽器でも、たたき方、力の入れ方、ばちの種類によって、音が様々に変化する。その中から自分のイメージした音に近いものを見つけ、つくり出す活動は、一人一人の個性・感性を伸ばし、より豊かにするために必要なことである。



—グループで工夫する—

イ 編曲の工夫

楽器の演奏技能は、個人差が大きい。自分の力に合ったふしを作って主旋律に合わせて演奏できるようにする。この学習は、アンサンブルを生涯にわたって楽しむ創造的な態度・能力の育成にもつながり重視することが必要である。子供たちは、この経験を積むことにより、自分たちでふしをつくることに慣れ、アンサンブルを楽しむようになった。

- ・ステップ1 児童に主旋律に合う和音の進行を提示する。



- ・ステップ2 和音進行の中から音を選んで全音符で演奏できるようにする。



- ・ステップ3 和音進行の中から音を選んで二分音符でも演奏できるようにする。
- ・ステップ4 選んだ音を基に、リズムを変えたり、音と音の間の音を順次進行でつないだりして演奏できるようにする。



- ・ステップ5 ステップ1～4に合う楽器を選び、合わせて演奏できるようにする。

【鑑賞指導の工夫】

鑑賞の学習は、受動的な学習と考えられがちであるが、美しさを求めて音楽を聴くという創造的な学習である。子供が美しさを求め、いろいろな活動ができる鑑賞学習の工夫をすることが必要である。

- ・調査・発表の活動を取り入れる。

個人やグループ鑑賞について、作曲家や曲の内容、エピソード等をまとめ、発表させ理解を深めてから鑑賞する。

- ・身体反応や身体表現を取り入れる。

曲の変化を体で表現したり、リズムにのって踊ったり、指揮者・オーケストラの楽器奏者になって模擬演奏をしたりする。

- ・歌唱や器楽の表現活動と関連づける。

「おはやしをつくろう」「ぼくたちわたしたちのキラキラ星変奏曲をつくろう」など、鑑賞曲と表現活動とを関連づけ、鑑賞学習を発展的に扱う。

【つくって表現する指導の工夫】

音楽をつくって表現する学習は、児童一人一人の感じ方や発想を生かしながら、自由に自己表現することができる能力や態度を育成しようとするものである。子供たちが音や音楽をつくったり、表現を工夫したりする活動の中で、これまで積み重ねた音楽経験が生かされ、表現に必要な基礎的・基本的能力が高まり、音や音楽に対する感性が育っていくのである。

〔事例〕 ・題材 『楽しい音をつくろう』（第2学年） 第3時（5時間扱い）

・教材 「おむすびころりん」 平井多美子作詞 石桁冬樹作曲

学 習 活 動	工 夫 等
○「おむすびころりん」のイメージに合う動きを工夫し、リズムにのって楽しく歌う。	・イメージをもつ ・身体表現（拍感をつかんで）
○様子を表す音を工夫したり音楽をつくったりする。 ・おむすびがころがる音 ・おむすびを追いかけるおじいさんの様子を表す音（台詞なども入れて） ・おじいさんが穴の中に落ちた音 ・穴の中から聞こえるねずみたちの歌（歌と合奏） ・ねずみがもちをつく音	・音色の工夫・奏法の工夫 ・速さの工夫 ・音の組み合わせの工夫 ・音色・強弱の工夫 ・ふしづくり ・簡単な伴奏付け ・奏法の工夫 ・リズムづくり（言葉も） ・強弱の工夫 ・音の高低
○工夫した音や朗読を加えて「おむすびころりん」を通して演奏し、話し合う。	・音の重なり ・曲の構成の工夫 ・多様な表現

〔考 察〕

「おむすびころりん」は、児童がよく知った昔話である。また、児童一人一人が自由にイメージを広げて音づくりや音楽づくりができる教材である。学習活動と児童の工夫の内容を洗い出すことによって、自信をもって授業に臨むことができた。児童は「おむすびころりん」の音楽を、一人一人が自分の工夫を出し合って、友達と楽しくつくり上げていった。

(4) 互いに発表し合い、よさを認め合うことができるようにする

① 友達の見解や演奏のよさを取り入れ学び合う。

みんなで一つの音楽をつくり上げる学習の過程では、互いに意見を交換したり、演奏を聴き合ってよさを取り入れ、よりよい表現を求めるようにしていくことが必要である。

隣同士の二人組やグループの友達同士で確認し合ったり、工夫し合ったり、学び合ったりする活動を重視するようにする。また、学習の途中で中間の演奏発表を行い、他のグループから、改善すべき点について意見をもらったり、他のグループの演奏からよさを学び、自分たちの演奏に取り入れたりするようにする。

教師は、各グループを観察し、子供たちは一人一人の活動の様子、学習の進み具合を把握するとともに、質問に答えたり、困難にぶつかっている児童やグループにヒントを与えたりするようにする。



—グループ練習—

② 他のグループの演奏を聴いてよさを認め合う。

友だちの演奏を聴いて、工夫しているところ、よかったところを互いに認め合うことは、一人一人を大切にすることへとつながる。「〇〇君の木琴の音が楽しそうで良かったです。」「〇〇さんの太鼓の音、優しくたたいていてちょうど良かったです。」など、よさを見つけ互いに認め合う言葉を聞くと心がなごむものである。努力や工夫が認められ、ほめられると、本人は成就感や満足感を味わい、自信を得、また、グループや学級の雰囲気も温かいものになっていくのである。このような意見交換の場を数多く経験することにより、子供一人一人が個性を発揮し、創造的に音楽活動に取り組むようになっていくのである。

教師は、児童の活動の様子に目を配り、目立たない児童の中からも、よさを発見するように心がけて「〇〇さんが、がんばっているよ。」などと、皆に紹介するなどして、音楽活動が温かい雰囲気の中で進められ、一人一人の児童が持っている力を十分に発揮できるようにすることが必要である。



—グループ発表—

③ 実践事例

【題材及び学年】 『ドレミで歌って』（第2学年）

【題材の目標】 ・階名唱に慣れ、音程を正しく歌うことができるようにする。
・友達と協力し合って楽しく合奏することができるようにする。

【考察】 ・本時の学習は、互いに発表し合い、よさを認め合うことに重点を置いて進めた。学習の初期の段階では、①楽譜通りに演奏しているか、②約束を守った組み合わせや分担になっているか、③そろっているか、などの発表が多かった。しかし、回を重ねる

授業実施日		平成5年7月1日（木） 第5校時 （5時間扱い第4時）	
本時の 目 標	① 友達と協力し合って合奏をまとめることができるようにする。 ② 楽器の組み合わせを工夫して合奏することができるようにする。 ③ 友達の演奏をしっかりと聴き、よさを認め合うことができるようにする。		
評 価 規 準	① 友達と協力し合って合奏することができる。（関心・意欲・態度） ② 楽器の組み合わせを工夫し、演奏することができる。（工夫・表現技能） ④ 友達の演奏を聴き、よさを発見することができる。（鑑賞の技能）		
学び方	経 験	学 習 の ね ら い	子 供 の 学 習 活 動
・ 関心をもつ	・ 階名唱 ・ リズム ・ パターン	○リズムに気を付けて歌う。 ○正しい音程で歌う。 ○2拍子の拍の流れにのって歌う。	・ 今月の歌「つり橋わたれ」を歌う。 ・ 「ポンポンピアノ」の歌詞唱、階名唱をする。 ・ 3つのリズムパターンに合わせて歌う
・ 発表し合う ・ いろいろな方法 ・ めあてをつかむ	・ カードを活用し ・ 学習した楽器 ・ 合奏をまとめる	○めあてをつかむ。 ○楽器を分担する。 ○楽器の組み合わせを工夫する。 ○グループごとに合奏する。 ○他のグループの演奏を聴き合い、よさを認め合う。	・ めあてカードをみんなで読む。 ・ グループに分かれて、楽器分担をする ・ 自分たちのイメージした響きになっているか確かめながら練習する。 ・ ピアノ伴奏に合わせて合奏する。 ・ 伴奏なしで合奏する。 ・ 他のグループの演奏を聴いて、意見交換をする。
・ 自己評価 ・ 新たなめあて	・ 表現の違い ・ の発見	○他のグループの合奏に合わせて歌う。 ○次時の予告をする。	・ 他のグループの合奏に合わせて「ポンポンピアノ」を歌う。 ・ 合唱奏、録音を通して、聴き合うことを知る。

ごとに強弱や奏法に関する意見が目立ってきた。

例えば「全体のつりあいを考え、鍵盤ハーモニカが大きい音でちゃんと弾けてよかったです。」「大太鼓の音がやさしくたたけてよかったです。」などである。このような児童の発見を教師が認めると、他の児童も楽器の音に気を付けるようになっていった。認められたうれしさや表現方法への気付きが、よりよい音を求める活動へとつながっていったのである。

この活動によって、児童は、音に対するこだわりをもち始め、集中してお互いの演奏を聴くことができるようになった。

教 材	「ボンボンピアノ」	
資料等の準備	・歌詞たて書、階名カード ・リズム伴奏パターン（3種類） ・ボンボンピアノはかせカード（P.11参照） ・グループ活動用カード ・楽器の設定（2か所に分けて） ・カセットテープ	
教師の支援・指導上の留意点		評 価 （方 法）
・リズムにのれるよう、強拍・弱拍の変化をはっきりとピアノ伴奏する。 ・手拍子を入れたい子を入れるよう指示する。 ・言葉をはっきりと歌うよう助言する。 ・休符を大切にしよう助言する。 ・ピアノ伴奏をよく聴いて歌うよう注意する。		・リズムにのって気持ちよく歌うことができる。（観察・演奏） ・正しい音程、発音で歌うことができる。（演奏） ・2拍子の流れにのって、リズム打ちができる。（演奏）
・色画用紙を用い、子供の目を集めるようにする。 ・主旋律を大切にして、表情豊かな演奏ができるようにする。 ・パートが休むところを必ずつくるようにする。 ・仲良く話し合うことができるようにする。 ・弾き方、強弱、バチの選択に気を付けさせる。 ・テンポをそろえるよう指示する。 ・よかったところ、工夫するとよくなるところを見つけ、話し合わせるようにする。		・カードを参考に、各自の能力や希望を生かし、話し合う。（カード・観察） ・自分の楽器をしっかりと練習している。（観察） ・出だし、テンポを合わせ、合奏しようとしている。（観察） ・友達の演奏をしっかりと聴き、意見を述べている。（観察）
・はずんだリズムにのって楽しく合奏できるようにする。 ・本時の活動の素晴らしさをほめ、次時への期待や意欲を喚起するようにする。		・一生懸命演奏している。（演奏・観察）

(5) 学習を振り返り、自己評価することができるようにする

自己評価は、自らの学習を振り返り、その成果や改善すべき点を明らかにするために行うものである。自己評価の力を高めることにより、児童は自らの個性や能力を認識し、それを伸ばそうとさらに積極的に学習に取り組むようになるのである。

自己評価を客観的なものにするためには、自己評価の場面を数多く設定すること、児童相互の評価や教師の指導・評価の言葉かけに留意し、一人一人の児童のよさが認められたり、改善のめあてや方法をもつことができたりするようにすることが必要である。

① カードを活用した自己評価の事例

一時間の流れの中に、児童が自分でカードを活用し、自主的に課題を追求する学習を15分くらいとって実施した。この活動を通して、児童は、課題解決の方法を試行錯誤しながら自分なりの学び方を確立していくことによって、より主体的に音楽活動に取り組めるようになり、一斉学習においても、以前にもまして学習意欲の高まりを見せるようになっていく。

次に示したカードは、歌唱・器楽の学習について自己評価をすることができるように工夫したものである。

4年 音のたからばこ No.2 音や音楽をとおして、 自分の思っていること、感じていること 努力していることをはっきり、くっきり 先生やお友だちに伝えてください。									
めあて 曲名	フェイス トレーニング	はっきり くっきり 発音・音	さよくの 山 強・弱	声の虹 一点、 ハーモニー	ふしに虹 をかけて オブリガード	さよくの まどまり ハーモニー	もっと くふう アレンジ	協力	発表
いろいろな 木の実 (4)ばい	合	金 シール	金	ミ ド ソ ラ		金	銀	金	🌟
おどろ 楽しい ポレタケ ハ長調 (3)ばい	合 合	金 シール	銀 金	ド ミ ソ シ ラ		銀	合	金	🌟
もみじ	合	—	金	ド ミ ソ ラ		金	合	金	🌟

② いろいろな自己評価カード

【歌唱学習の評価カード】

この学習カードは、
発声・発音の基礎を身
に付けること、表現を
工夫することを重視し
作成したものである。

姿勢、発音、腹筋の
活用や表現の工夫など
を児童に気付かせ、学
習を進めることをねら
いとしている。

今日のめあてカード（歌の学習）

年 組 名前

めあて	月	日	/	/	/	/	/	/	/
①正しい姿勢で歌う									
②ことばをはっきり歌う									
③のどの奥をあける									
④おなかを動かして歌う									
⑤遠くまで届くように歌う									
⑥高い音をきれいに歌う									
⑦友達の声聴いて歌う									
⑧暗譜して歌う									
⑨表現を工夫して歌う									
⑩楽器に合わせて歌う									
先生から									

★自分の今日の目標に／をつける。（授業の始め）

★今日の学習を振り返って◎○△×をつける。（授業の終わり）

学習カード（楽器の学習）

年 組 名前

曲 名	月	日	/	/	/	/	/	/	/
①ドレミ（階名）で歌う									
②階名を覚えて歌う									
③たて笛のパートを吹ける									
④鍵盤ハーモニカのパートを吹ける									
⑤（ ）で（ ）のパートが演奏できる									
⑥友達のを聴いて合奏ができる									
⑦指揮者の指揮に合わせて合奏ができる									
⑧友達に教えてあげる									
⑨友達に教えてもらう									
先生から									

★かんばれたかな？ ◎○△をつけよう

◎できた ○だいたいできた △もう少し

【器楽学習の評価カード】

器楽の学習カードで
は、クラス全員で学習
する楽器や受け持った
楽器の演奏について評
価するようにした。

また、友達と合わせ
ることや協力し合って
学習を進めることなど
を重視し、項目を設定
し、作成した。

【音楽をつくって表現する学習の評価カード】

このカードでは、自分
の工夫について、評価す
る。他の人の工夫や皆の
評価、教師の評価、自分
の思いなどをもとに評価
する。

音をつくろう

年 組 名前

音の名前	使ったもの	その音どうやって出したの？	◎○△
のこぎり で木を切っ て いる音	・プラスチック ぼう ・あみ（ステン レスせい）	プラスチックぼうであみをこず ると、のこぎり で木を切っ て いる音に聞こえた。	◎
昔のタイコ の音	・自分の手 ・自分のおはか	自分のおはかを自分の 手でたたく。	◎

③ 教師の支援

課題解決の過程で、子供たちは様々なつまづきに出会う。教師は実態を的確につかみ、適切な支援や助言をすることが大切である。また、教師の言葉の一つ一つが児童一人一人の音楽の評価観を形成する重要な要素となる。教師の言葉は、難しいものではなく、共感的な立場に立って、やさしい言葉で認めたり、ほめたり、ヒントを与えたり、指導したりするよう留意することが必要である。

〈教師の言葉例〉

	教 師 の 言 葉	支 援
興味・関心を高める	・おもしろそうだね。 ・きれいな曲でしょう。 ・この曲のどんなところが気に入った？ ・こんなふうになれたらいいね。 ・皆で力を合わせれば大丈夫。できるよ。	・「おもしろそうだ」「歌ってみたい」「演奏してみたい」といった子供の意欲を引き出すようにする。
見通しをもたせる	・どんなふう勉強していったらいいか考えてごらん。 ・どんな音楽ができそうかな。 ・いい考えだね。ぜひやってみよう。	・一人一人の児童が、自分の能力に応じためあてや計画をもったり立てたりできるようにする。
いろいろな工夫をさせる	・どんなふう演奏したいの。 ・いい考えだね。 ・ほかに、いい方法はないかな。 ・こんなやりかたもあるよ。 ・この前の勉強で〇〇をしたでしょう。 ・皆、〇〇グループが素敵な工夫をしてるよ。聴かせてもらおう。	・これまでの音楽経験を生かして学習できるように助言する。 ・教師が手を出し過ぎて、子供の意欲をそぐことのないよう十分配慮する。 ・うまくいかないグループと一緒に活動する。
話し合いを促す	・どんなところが、心に残ったのかな。 ・これから練習するとき気を付けることを見つけよう。 ・素晴らしかったね。△△が〇〇グループのよかったところだね。	・友達の表現から学んだり、より豊かな表現をするための方法を考えることができるようにする ・教師は、「ほめる」「認める」「励ます」ようにする。
自己評価をさせる	・めあてやがんばったことを思い出してごらん。 ・前より上手になったかな。 ・うまくいかなかった原因を探し、どうしたらよくなるか考えてごらん。 ・とってもよかったよ。特に、〇〇さんの口がよくあいてはっきり歌えていたね。	・単なる反省ではなく、よかったこと、次に工夫したいことなどを引き出すようにする。 ・カードなどの自己評価には、認める言葉、励ましの言葉や期待の言葉などを一筆書くようにする。
新たなめあてをもたせる	・だいぶ高い声ができるようになってきたね。今度の時間には、気持ちを込めた歌い方ができるようにしよう。 ・この次、勉強する曲には、#のついたソの音が出てくるよ。こういう指使い、こんな感じの曲だよ。いい曲でしょう。	・努力や成果を認め評価し、「次もがんばれよ」という励ましの言葉かけをするようにする。 ・次の課題を教師自ら音楽で語って提示したり、感動を伝えたりする。

(6) 新たなめあてをもって取り組めるようにする

1時間の授業の流れ、題材の展開の終末には、新たなめあて・意欲をもって次時に臨むことができるようにすることが必要である。

自己評価や学級全体での評価をもとに、達成できたことを発展させたり、十分に達成できなかったことやもう少し詳しく深くやってみたいことを補ったりすることができるようにする。

具体的な手順としては、

- ①その時間や題材のめあてに対して、自分やグループがどのような達成の状況にあるか評価し合う。
- ②学習を通してよかったこと、身に付いたものや課題となったことを明確にする。
- ③音楽のもつ美しさを感じ取ったり、表情豊かに表現するにはどうしたらよいか考える。
- ④新たなめあてを一人一人の児童がもつ。
- ⑤次時の学習への期待感をもつことができるよう、次時の学習のヒントや励ましの言葉を与え、送り出す。

【指導事例】 題 材 「ひびきを味わって歌おう」(第3学年)

教 材 二部輪唱「あの雲のように」

T: 輪唱のグループ発表を聴いて「前よりここがよかったよ」「ここはこういうふうにした方がいいよ」ということがあったら友達に教えてあげましょう。

C: ○○グループは口がよくあいていて、みんなの声がよく聞こえました。

C: ○○さんは体がゆれて、本当に雲にのって旅をしているみたいでした。

C: ○○グループは、ちょっと、どなっていました。やさしい声で歌った方がいいと思います。

T: では、次の時間は、どんなことに気を付けて練習したらいいですか。

C: 「かえるのびよんた」の輪唱の時のように、どならないでやさしく歌う。

C: 相手の声を聴きながら、声が仲良くまざるようにする。

C: 二つの雲が追いかけてっこをしているみたいにやさしく歌う。

C: 二人だけでも、つられないで歌えるようにする。

T: そう！二人でも輪唱できるといいね。次の時間、がんばりましょう。

Ⅲ 研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

研究主題「音楽経験を生かし、主体的に音楽活動に取り組む児童を育てる指導の工夫」に迫るため、「学び方を身に付ける活動を通して」を副主題として、「主体的に学ぶこと」に焦点を当て、「音楽経験が生かされている授業」「主体的活動を引き出す教師の指導と評価」について研究を進めてきた。その結果、以下のことを成果として得ることができた。

- ・「音楽経験が生かされる授業」の工夫によって、一人一人のアイディアが生かされ、児童の生き生きと活動する様子が多く見られるようになった。
- ・「学び方を身に付ける活動」を定着させることにより、見通しや自分なりの課題を持って音楽活動をしようとする児童が増え、音楽学習が活発になってきている。
- ・課題解決の過程を通して、基礎・基本の定着が図られ、より美しい音、よりよい音楽を求めようとする姿がこれまで以上に見られるようになった。
- ・学習形態の工夫や学習カードの利用によって、児童理解が深まり、主体的活動につながる適切な評価や支援に留意した指導に心掛けるようになった。
- ・指導計画を作成する際に、児童の今までの音楽経験の実態を把握し、一単位時間、題材の指導過程でかならず経験が生きる場面を設定することにより、学習活動に発展性が見られるようになった。

2 今後の課題

「学び方を身に付ける活動」を重視した指導を、授業を通して研究・実践したことにより、児童が自ら課題を見つけ、より美しい音を求めて主体的に音楽活動に取り組むように変容してきた。しかし、次のような課題が残されている。

- ・授業以外の場で、音楽経験を豊かにしていく取り組みを広げていくこと。
- ・主体的活動を保障する、ゆとりある年間指導計画の見直しを図ること。
- ・個人差に応じた教材の開発、研究と場の設定を十分に図ること。
- ・変化し続ける児童の実態を的確につかむこと。
- ・学習形態に応じた教師の支援のしかたを工夫すること。
- ・児童の興味・関心が持続できるような教材開発と研究を継続すること。
- ・児童の内発的意欲を高め、心情面を豊かにする工夫をすること。

今後もこれらの残された課題を解明するため、研究を継続していきたいと考えている。